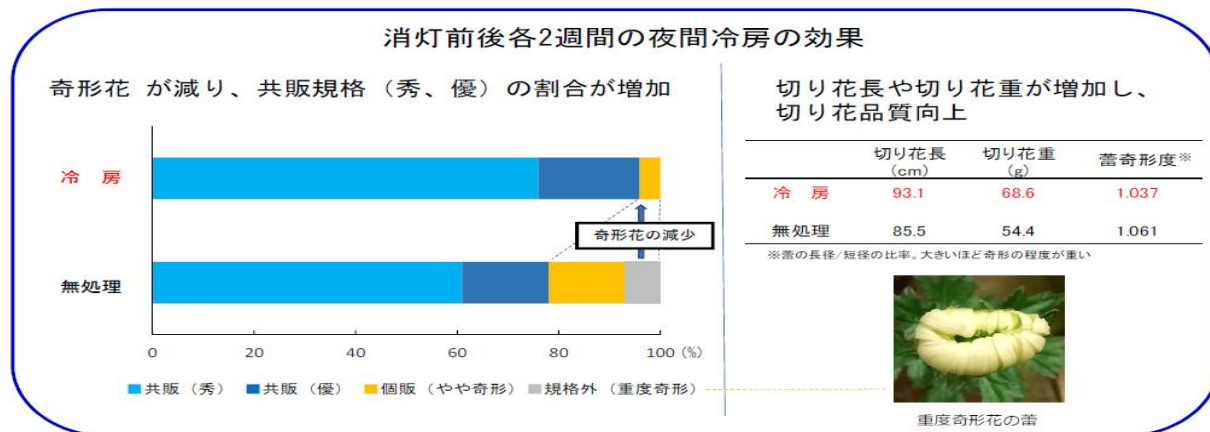


夏秋白輪ギク「精の一世」の 夜間冷房による奇形花発生軽減技術

夏秋期の白輪ギク主力品種である「精の一世」では、夏季の高温遭遇により蕾が扁平となる奇形花の発生が問題となっています。特に、花芽分化・発達期が梅雨明け後の高温期と重なる9～10月開花作型において、奇形花の発生は顕著となります。この奇形花対策として、栽培期間を通した夜間冷房の効果が報告されていますが、冷房コストの負担が大きくなります。そこで、福岡県農林業総合試験場苗木・花き部では、生育ステージ別の夜間冷房が奇形花発生および切り花品質に及ぼす影響を明らかにし、短期間の夜間冷房による低コストな奇形花軽減技術を開発しましたので、その概要を紹介します。

☆ 技術の概要

1. 消灯前後の生育ステージが最も高温となる9月下旬～10月上旬開花作型において、消灯前後各2週間、夜間冷房（23℃、18:00～6:00、以下、消灯前後夜間冷房）を行うと、重度奇形花の発生を軽減でき、正常花の割合が高くなります。また、消灯前後夜間冷房を行うと、共販規格品の発生割合が高くなり、切り花長および切り花重が増加し、切り花品質が向上します（図）。
2. 消灯前後夜間冷房を行うと、10a当たりの冷房コストが9万円、出荷経費増加額が6.1万円となりますが、共販出荷割合の向上に伴い販売金額が40.6万円増加するため、25.5万円所得増となります。



☆ 活用面での留意点

1. 「精の一世」の高品質生産技術として活用できます。
2. 「精の一世」を栽培するヒートポンプ設置施設において活用できます。
3. 奇形花発生割合および電力使用量は、気象条件による年次変動があります。
4. 詳しいことは、福岡県農林業総合試験場 苗木・花き部 花きチーム（TEL：0943-72-2243）までお問い合わせ下さい。